

ひとつの提案

「多くの人にひろばを利用してもらうために」

たかまさ母さん（岩手県）

岩手県陸前高田市。初めての子育てはここではじまりました。

3・11の大震災で市内の子育て支援施設・ひろばのどれもが被災。「おやこの広場きらりんきつず」もそのうちのひとつでした。このひろばは1か月後、中学校の図書室を間借りして開所され、避難した親子が再会できる場所となりました。その後、場所を変えて利用され続けています。あの大惨事後、このひろばを利用できたおかげでどれだけ気持ちが悪くなったかしれません。生活環境が大きく変わりストレスを感じていましたが、子育てする者が集う場所での何気ない会話に

よって気分がすっきりし、こういう場所の重要性を感じています。

私たち親子は震災の翌日に内陸に避難し、再び3か月後に陸前高田で生活し始めました。その頃の市内の道路はトラック・大型車が多く行き来しており、車道近くは土埃が立ちこめている状態。1歳3か月の子を乗せてベビーカーをひいて散歩もしてみたものの、粉塵が気になりしばらく出歩かなくなりました…。このままでは良くないと重い腰をあげ無料バスに乗りひろばを利用したのは4か月目のこと。無料バスは自衛隊が震災で交通手段を失った私達の為に急いで用意して

くださったもの。ありがたく乗車しました。その時私が利用できた子育て支援施設は「きらりんきつず」のみでした。帰りの長い待ち時間をつぶすために弁当を公園で食べたり、仮設のお店で買い物したり散歩したりと不便なこともありました。

3・11では誰もが不安になり、おびえました。暗くどんよりとよんだ気持ちや不安な時にこそ、出来るだけ早く利用できていたら、多くの人に利用されていたらと思います。沿岸部は多くの人たちが車を失ったので、その結果、早くにひろばや支援施設が再開されたにも関わらず、子育て支援施設を利用できなかった方が沢山いたのではないかと思います。

ストレスを大きくかかえる大惨事には、被災者が利用できるよう施設の開所と共に施設行きのバス、または施設経由（無料バス）の整備がいち早くあればと考え

ます。さらに一時的にでも施設名の入った停留所の設置をすれば、なお多くの方が利用しやすいのではないのでしょうか。

3・11のあの日、見知らぬ人が沢山の避難所に知り合いのママさん、同じ立場の人達がいるだけで安心感を覚えたものです。子どもの笑顔に救われ、癒されました。

これからも多くの人にひろばが利用されますように…。

最後に母親である私達、スタッフ皆さんの笑顔も子ども達を癒やしていることを忘れないようにしたいと思います。

